

【学校評価の考察】

1 学校についての項目から

学校内の施設整備や清潔な教育環境の維持については保護者、職員ともに評価を得ました。地域コーディネーターを中心に保護者のボランティアとともに普段清掃が行き届かない場所を改善するなど、学校と地域が合同で活動しました。また、今年度は可能な限り、他学年との交流や学年での活動を実施しました。児童は活動を通して自主性や責任感、協力などを学んでいるところです。充実感につながる教育活動が実施できたと考えています。

その反面、登下校の安全対策やコロナ、熱中症対策など課題が残りました。健康管理や交通安全等の指導とともに、児童にとって安心できる場所となるよう努力していきたいです。

2 職員についての項目から

昨年度導入されたタブレット端末を1年生から6年生まで、どのクラスもオンライン学習やドリル学習だけでなく、児童の考えを発信する手段として活用できるようになりました。児童みんなの考えを共有し、わかりやすい授業をしようと取り組んでいます。また、学習面だけでなく、「心の天気」を活用し、児童の内面を把握するように取り組んでいるところです。いじめ問題に対しては、生徒指導部会をこれまでの2倍設定し、事案の把握や対策を組織的に素早く取り組んでいけるように改善しました。今後も一人一人に寄り添った指導を目指したいと考えています。

3 地域・家庭との連携についての項目から

情報発信はホームページやメール、学校便りの発行を活用しました。また、地域支援コーディネーターや社会福祉協議会をはじめ、地域ボランティアの方やPTA役員等と関わりを持つことができたことが成果につながっています。今後も、様々な可能性を模索して、本校の教育活動の成果を伝えていきたいと考えます。また、今年度は本校ホームページの「東小日記」を毎日アップデートしたことが、閲覧数アップにつながっています（1日の平均閲覧数は460でした）。

4 児童の評価から

今年度は、学校行事や宿泊行事等、コロナ禍ではあるが感染症対策を講じながらできる限りの実施を試みました。その甲斐もあり、児童は元気で明るい様子を見せています。登校に不安を持つ児童には、自宅でサポートできるようオンライン学習を行ったり、校内に学習ルームを設け心の休憩場所を設置したりしながら個に応じた指導を心がけています。

その反面、自分の考えを発表することが少なかったことが課題となりました。来年度は、発表する楽しさを味わわせること、自信を持たせること、話し方を身に付けること等、具体的な指導を行っていきます。

また、家庭で手伝いをしたり学習をしたりする習慣がない児童が徐々に増えていることが気になります。生活習慣を見直すことも、コロナ禍の大きな課題だといえると思いますが、学校でも指導を継続して行います。